

平成24年1月27日

生命環境系 准教授  
辻村 真貴 殿

学 長

2011 BEST FACULTY MEMBER 表彰式の開催について（ご案内）

今年度実施した大学教員業績評価において、貴殿は、平成22年度の活動内容が特に優れたものであったことが認定されました。

ついては、その活動に敬意を表し、その栄誉を称えるため、下記のとおり表彰式を開催させていただきますので、ご出席くださるようお願いいたします。

なお、ご出席の有無について、2月2日（木）までに下記連絡先までご回答ください。

また、当日、今回の業績に関する発表の場を設けさせていただきますので、別紙のとおりご準備をお願いいたします。本評価制度の目的である教育研究活動の向上に資するという観点から、是非ご協力いただけますよう重ねてお願いいたします。

記

1 日時 平成24年2月28日（火）15時～17時

2 場所 大学会館ホール

3 出席予定者

- ・学長、理事、副学長、監事
- ・系長、研究科長、専攻長、学群長、学類長、学系長、センター長等
- ・全学評価委員会及び部局評価委員会の委員
- ・一般教職員
- ・学生

4 次第

- (1) 開式
- (2) 表彰
- (3) 学長挨拶
- (4) 業績発表（1人5分）
- (5) 閉式

予定所要時間 120分

5 発表資料について（別紙）

（本件連絡先）

企画室 評価企画係

中澤、石川 (2047)

kikakusitu@un.tsukuba.ac.jp

# 2011 BEST FACULTY MEMBER 一覧

所属系	職名	氏名	SS評価領域	評価実施組織
人文社会系	教授	ウシロ ユウジ 卯城 祐司	社会貢献・学内運営	人文社会科学研究所
	准教授	シバタ ダイスケ 柴田 大輔	研究	

ビジネスサイエンス系	教授	アオヤマ ケイジ 青山 慶二	社会貢献・学内運営	ビジネス科学研究科
------------	----	-------------------	-----------	-----------

数理物質系	教授	アカサカ タケ 赤坂 健	研究	数理物質科学研究科
	教授	シゲカワ ヒデミ 重川 秀実	研究	
	准教授	アライ イチロウ 新井 一郎	教育	

システム情報系	教授	イワタ ヒロオ 岩田 洋夫	研究	システム情報工科学研究科
	准教授	カハシ ダイスケ 高橋 大介	研究	

生命環境系	准教授	ハシモト ヨシテル 橋本 義輝	研究	生命環境科学研究科
	准教授	ツジムラ マキ 辻村 真貴	社会貢献・学内運営	

人間系	教授	ミヤモト シンヤ 宮本 信也	社会貢献・学内運営	人間総合科学研究科(人間)
	教授	オガワ トシキ 小川 俊樹	社会貢献・学内運営	

体育系	准教授	ミキ ヒロミ 三木 ひろみ	教育／社会貢献・学内運営	人間総合科学研究科(体育)
	教授	ソヤ ヒデアキ 征矢 英昭	研究	

芸術系	教授	スズキ マサカズ 鈴木 雅和	研究／社会貢献・学内運営	人間総合科学研究科(芸術)
-----	----	-------------------	--------------	---------------

医学医療系	教授	アサダ タカシ 朝田 隆	診療	人間総合科学研究科(医学)
	講師	ヤスダ ススム 安田 貢	社会貢献・学内運営	
	助教	タハラ サトコ 田原 聡子	研究	

図書館情報メディア系	准教授	モリシマ アンユキ 森嶋 厚行	研究	図書館情報メディア研究科
------------	-----	--------------------	----	--------------

## 認定理由

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
人文社会科学部研究科	卯城 祐司	社会貢献・学内運営	現代語・現代文化専攻	教授

卯城教授は、英語教育に関し、文部科学省における「外国語能力の向上に関する検討会」委員や「新たな外国語活動教材作成検討委員会」委員、つくば市における「教育振興基本計画懇談会」座長を務めるとともに、小学校英語教育学会など関連学会における活動を通じて、日本の小中高校における英語教育に多大な貢献をした。  
また、教員免許状更新講習推進室室員として企画・運営業務に携わり、本学の社会連携活動に貢献した。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
人文社会科学部研究科	柴田 大輔	研究	歴史・人類学専攻	准教授

柴田准教授は、楔形文字文書原資料の文献学的研究に基づく古代メソポタミアの宗教史・社会史の研究を推進した。シリア・アラブ共和国における遺跡発掘調査に参加し、文字資料の体系的な記録と解説を行った。また、日仏共同ワークショップを両国において開催するとともに、ドイツ・イスラエルの研究者との国際プロジェクトを推進した。それらの研究成果を5本の英語論文にまとめ、学術誌に寄稿し、受理されるとともに、国際アッシリア学会などにおいて口頭発表した。  
さらに、本学プレ戦略イニシアティブ「西アジア文明研究センターの構築」に参加し、センターを建設する努力を惜しまなかった。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
ビジネス科学研究科	青山 慶二	社会貢献・学内運営	企業法学専攻	教授

青山教授は、政府税制調査会専門委員会特別委員として、平成23年度税制改正における国際課税に関する提言のとりまとめに関与するとともに、国際連合税制委員会及び税に関する国際的協力に関する専門委員会委員として、審議及び報告書の作成に携わった。さらに、国際租税学会の常設科学委員会における唯一の日本人委員として、学会の研究活動の推進などに努めた。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
数理物質科学研究科	赤阪 健	研究	化学専攻	教授

赤阪教授は、平成22年度及びそれまでの研究業績が評価され、文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)を受賞した。  
また、科学研究費新学術領域研究(研究領域提案型)「高次π空間の創発と機能開発」では、領域代表として研究を推進し、平成22年9月の中間評価において最高評価「A+」を得た。さらに、本学の戦略イニシアティブ(A)「機能物質創製研究拠点」に採択され、化学関連分野の拠点として発展させた。  
併せて、学生の指導において平成22年度までの6年間連続で計8名の「数理物質科学研究科長賞」の受賞者を輩出した。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
数理物質科学研究科	重川 秀実	研究	電子・物理工学専攻	教授

重川教授は「走査プローブ顕微鏡と量子光学を融合した極限計測技術の開発」の功績で平成22年度日本表面科学会学会賞を、“Carrier capture dynamics at localized gap states of Co nanoparticles grown on GaAs(110) probed by time-resolved STM”の業績で4th AEARU Advanced Materials Science Workshop Silver Poster Awardを受賞した。  
また、国内研究発表23件(うち招待講演7件)、国外研究発表3件(うち招待講演2件)など活発な活動を展開するとともに、科学研究費補助金基盤研究(S)「スピンドYNAMICS可視化技術の開拓と新奇機能素子開発への展開」による研究を推進して、新しい顕微鏡の開発を行った。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
数理物質科学研究科	新井 一郎	教育	物理学専攻	准教授

新井准教授は、e-Learning委員会の委員、eラーニング推進室長として、「Moodleを利用した授業」を積極的に導入するとともに、FD講習会等を通じてその普及に努めるなど、全学的なe-Learning教育を推進し、教育の質向上のための環境整備に大きく貢献した。

また、本学において開催した物理チャレンジ2011第2チャレンジの現地実行部会委員を務め、日本全体の物理教育に貢献した。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
システム情報工学研究科	岩田 洋夫	研究	知能機能システム専攻	教授

岩田教授は、(独)科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業(CREST)「デバイスアートにおける表現系科学技術の創成」により、日本科学未来館におけるデバイスアートの常設展示を開設する等、展示を通じて研究を推進する新たな方法論を確立した。これに対して、科学技術分野における文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞するなど、特に研究領域において本学の社会的評価の向上に貢献するとともに、他の教員の手本となる業績を達成した。

また、(独)港湾空港技術研究所との共同研究の成果に対して、日本バーチャルリアリティ学会論文賞を受賞(平成23年9月16日)した。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
システム情報工学研究科	高橋 大介	研究	コンピュータサイエンス専攻	准教授

高橋准教授は、並列数値計算アルゴリズムに関する研究として行ってきた「高速フーリエ変換のアルゴリズムの研究」の業績により、科学技術分野における文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞した。この研究で提案された高速フーリエ変換(FFT)のアルゴリズムに基づき開発されたオープンソースの「FFTEライブラリ」は、複数のアーキテクチャの計算機において、現在世界で最も高速であるFFTライブラリの一つとして認知されているとともに、今後の科学技術の基盤となる計算科学における大規模計算の高速化に大きく貢献すると期待されている。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
生命環境科学研究科	橋本 義輝	研究	生物機能科学専攻	准教授

橋本准教授は、微生物の新たな生命現象や多様な潜在能力にかかわるタンパク質・酵素の構造と機能(反応機能を含む)を分子レベルで解明する基礎研究を行い、新規機能を有する微生物を育成し、有用物質生産への応用を目指している。このうち、産業用酵素、抗生物質や免疫抑制剤などの有用医薬品等に使用される放線菌を取り上げた「放線菌を利用した実用レベルの有用物質生産基盤技術の開発」研究計画が認められ、内閣府の「最先端・次世代研究開発支援プログラム」に採択された。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
生命環境科学研究科	辻村 真貴	社会貢献・学内運営	持続環境学専攻	准教授

辻村准教授は、文部科学省科学技術振興調整費「戦略的環境リーダー育成拠点プログラム」の代表世話人として、所属専攻のみならず全学の英語プログラムの運営に大きく寄与した。とりわけ、環境系の専攻においては留学生を対象としたJDS(留学生支援無償事業)等の英語学際教育プログラムなどとあわせてICEP(国際連携環境プログラム)の推進に大きく寄与し、留学生支援についても、支援事務室の一本化に取り組むなど、大きな成果をあげ、留学生からの評価も高い。こうした活動は、大学が進めている国際化方針を強化することに繋がり、その意義は大きい。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
人間総合科学研究科(人間)	宮本 信也	社会貢献・学内運営	感性認知脳科学専攻	教授

宮本教授は、子ども虐待、発達障害、摂食障害等の研究的知見を基盤として、厚生労働省社会保障審議会専門委員として、子どもの虐待死亡事例の検討を継続的に実施しているほか、緊急な対応が求められている小児からの臓器移植提供に関して、厚生労働省の「脳死下での臓器提供事例に係る検証会議」委員として、臓器提供者選定の適切性に関する審議を新たに行った。さらに、法務省中央更生保護審査会委員を務めるほか、茨城県発達障害者支援連絡協議会議長として県内の発達障害児・者支援事業に取り組むなど、現代社会の喫緊かつ重要な課題に対応するなど、社会貢献の上で著しい業績をあげた。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
人間総合科学研究科(人間)	小川 俊樹	社会貢献・学内運営	ヒューマン・ケア科学専攻	教授

小川教授は、総合科目編成部会長として、共通科目の立案・実施に尽力するとともに、本学のハラスメント防止対策委員会筑波部会委員として、ハラスメント防止のための広報活動や事案調査等に関わり、ハラスメントの防止に貢献した。また、日本ロールシャッハ学会の会長を務めるほか、茨城県臨床心理士会会長として、「こころの健康電話相談」などこころの健康増進のための活動に尽力した。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
人間総合科学研究科(体育)	三木 ひろみ	教育 社会貢献・学内運営	体育科学系	准教授

三木准教授は、体育専門学群生の英語力向上に尽力し、特に筑波英検の不合格者に対する補習授業のマネジメント及び実際の指導担当は実績を上げており、本学群の内外から高く評価された。また、海外の交流協定校と連携して、国内外の学生が協同して体育・スポーツについて英語で学ぶTsukuba Summer Institute for Physical Education and Sport を立ち上げ、第1回のプログラムの立案から最終的な総括まで中心となって活躍した。参加した学生に国際的共同研究の模擬体験の機会を与えるとともに、本学学生の英語力の向上、協定校との交流促進、さらには新たな交流協定締結の機会を得ることに成功した。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
人間総合科学研究科(体育)	征矢 英昭	研究	体育科学専攻	教授

征矢教授は、軽運動と認知機能向上に関するメカニズムの研究に取り組み、国内・外で高い評価を受けるとともに、国際研究誌のEditorとしても活躍した。さらに、文部科学省特別経費「心身統合スポーツ科学(Body and Mind Integrated Science :BAMIS)プロジェクト」をスタートさせ、心身の活力低下を学際的融合の観点から解明して革新的な運動プログラムの開発を目指すとともに、体育科学系内にもプロジェクト研究を公募し組織内の研究の促進に寄与した。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
人間総合科学研究科(芸術)	鈴木 雅和	研究 社会貢献・学内運営	芸術専攻	教授

鈴木教授は、環境デザイン学を専門として、建築・環境・プロダクト・情報の各デザイン領域を総合して、各地の地域再生デザインを実践しながらデザイン方法論を構築してきた。その成果は本学で開催された日本デザイン学会秋季大会の基調テーマとなるシンポジウムとして公開され、高く評価された。また、日本学術振興会の特別研究員等審査会専門委員を務め、特別研究員及び海外特別研究員など若手研究者の育成に貢献した。さらに、「芸術表現と学術研究」のシンポジウムを通じて、科学研究費細目に芸術表現に関する助成がない状況を改善すべく芸術分野の地位向上にも努めた。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
人間総合科学研究科(医学)	朝田 隆	診療	疾患制御医学専攻	教授

朝田教授は、附属病院外来において、年間100名を超える認知症の新患を受け入れるとともに、病棟では診療報酬の改定を利用して効率化に努め、精神科の収益を昨年比で40%程度の増とした。

また、アルツハイマー病の国際研究組織として広がりを見せている Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative (ADNI)の活動では、国内組織における臨床部門の責任者として貢献するとともに、精神科講座担当者会議の会長として、精神医学教育の改善に努めた。

さらに、東日本大震災の後には、被災地の精神医療支援の系統化のために厚生労働省と共同で、大学精神科に勤務する医師のマネージに貢献した。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
人間総合科学研究科(医学)	安田 貢	社会貢献・学内運営	疾患制御医学専攻	講師

安田講師は、かねてから災害急性期に機敏に活動できる医療チームDMATの推進者として準備にあたり、3月の東日本大震災発生直後にはDMATを率いて被災地の救済にあたった。初動活動後は、附属病院災害緊急医療調整室長として長期化している災害医療活動のコーディネートも積極的に行った。

また、茨城県医師会の救急医療協会企画委員会委員などを務め、茨城県全域の災害計画や救急医療体制整備で中心的な役割を果たすとともに、茨城県メディカルコントロール(MC)専門委員会副委員長として、茨城県病院前救護体制整備や救命士・救急隊員教育などの茨城県全域のMC体制発展に大きく関わるなど活動した。

さらに、地域救急医療関係者への教育や本学の社会貢献プロジェクトとして新国際標準救急蘇生教育体制強化支援などの活動を行い、そのレベルアップに寄与した。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
人間総合科学研究科(医学)	田原 聡子	研究	生命システム医学専攻	助教

田原助教らは、アレルギー症状の根本的な治療方法を開発するため、研究計画を立案し、アレルギーの発症を抑える新しいタンパク質であるアラジン-1を発見した。得られた研究成果は、大学院生を研究指導してまとめられ、責任著者としてNature Immunology誌に発表した。この研究成果により、今後、アラジン-1の機能を賦活化する薬剤の開発を行うことで、すべてのアレルギー疾患の発症メカニズムを阻止できる根本的な治療法の開発につながることを期待されている。

実施組織	氏名	SS評価領域	専攻	職名
図書館情報メディア研究科	森嶋 厚行	研究	図書館情報メディア専攻	准教授

森嶋准教授は、一貫してデータベース、データ工学領域において研究活動を展開し、その研究成果は、IEEEデータ工学国際会議やWWW国際会議等の国際会議において論文発表するなど国内外で評価が高まりつつある。

平成22年度には、優れた研究実績の上に、斬新な視点と研究遂行能力が認められ、JSTさきがけの研究領域「情報環境と人」において、研究課題「人と計算機の知の融合のためのプログラミング言語と開発環境」が採択され、新たな領域における研究を進めた。